

有馬温泉観光・宿泊業に関する調査

～兵衛向陽閣 経営企画室長 上月康暢氏、神戸市役所 コンベンション課 橋本健次郎氏のお話を聞いて～

文責：大阪商業大学 総合経営学部 商学科 塚野愛 川口詩寿歌 工藤佳苗

1. 調査理由

本調査の目的は、有馬温泉の宿泊業について現状や課題、地域との繋がりを探ることである。有馬温泉は、「日本書紀」に記載が残る豊臣秀吉も愛した伝統的な日本の観光地である。しかし、宿泊を伴わない日帰り観光の割合が 48.4%(2012 年)と高く、宿泊するとしても 2泊以上の宿泊客は非常に少ないのが現状である。そこで、有馬温泉の現状を、政策的、並びに経営的な目線から探るために、神戸市役所コンベンション課、兵衛向陽閣へのインタビュー調査を行った。

2. 調査内容



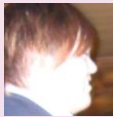
日時 2013年12月1日 13時～15時
インタビュー内容 有馬の宿泊業の現状
場所 兵衛向陽閣 (経営企画室長 上月康暢氏)
創業 約700年
旅館規模・総数 133室・定員800名
1人当たり平均宿泊金額 22,000～25,000円
年間来客数 約15万人

日時 2013年12月26日 10時～11時
インタビュー内容
市役所と有馬温泉外の連携について
場所 神戸市役所
(コンベンション課 橋本健次郎氏)

3. 調査結果

主なマーケット層は・・・？

40～50代のハイミドル世代



子供にも来てほしいと思うけど、その親世代は、経済的に厳しい。

地域との連携

有馬のほとんどの旅館が囲い込みで客を外に出さない



・デフレで売上げがずっと下がってきていたから
・顧客を外に出すことで有馬全体が将来的に賑わうのはわかっているが、今を大事にするため思いきれない。

4. 今回のインタビューを通しての問題点・課題点

本調査では、兵衛向陽閣と神戸市役所のインタビューにより、我々が抱いていた課題がインタビュー調査を通じて明らかとなった。調査結果から私たちは、宿泊業は外的要因にとっても左右されるということが分かった。

有馬の宿泊業が活性化することにより、兵庫県の宿泊業が活性化し、ひいては日本の宿泊業の活性化にもつながっていくと思う。我が国が掲げている「観光立国」へと一歩ずつ近づけていくために、地域・宿泊へと目を向け、今後も研究を続ける必要性を感じる。

5. 今後のゼミでの活動内容

- ・他の旅館にもインタビューをして比較する
- ・ランチス・クーポンの追及
- ・有馬温泉街の旅館が企画するイベントへの参加
- ・有馬温泉ゆけむり大学の活動への参加